



野鳥さが

発行者：宮原明幸 編集者：馬場順一 イラスト：中村さやか

日本野鳥の会佐賀県支部



東よか干潟 シギ・チドリ 秋の渡り最盛期 (撮影：加藤芳隆さん)

野鳥さが 254号 主な内容

- 役員会報告.....2ページ
- 事務局便り.....3ページ
- 「日本鳥学会」で「佐賀のコアジサシ保護活動」を報告.....5ページ
- 各地の探鳥会報告.....6ページ
- 皆さんからのおたより.....8ページ
- 皆さんからの野鳥&自然・生きもの情報.....12ページ
- 近隣地区の観察会情報&有明海の満潮時刻.....18ページ
- 探鳥会会場までの案内.....19ページ
- 探鳥会などのお知らせ (2024年10月~11月).....20ページ



役員会報告

(事務局:島田 洋)

【日 時】 2024年8月25日、9月23日

【出席者】 8/25:13名 9/23:16名(うち役員以外の方2名)

【議事内容】

(1) コアジサシについて

- ① 9月13日、東京大学での日本鳥学会「コアジサシ国勢調査」に宮原支部長が出席した。(報告は5ページをご覧ください)
- ② コアジサシの生息状況は危機に瀕している。コアジサシの飛来数は減少する一方である。今年全国では5018羽が飛来。252羽が巣立ちした。佐賀には80羽が飛来。カラスの襲撃などがあったが、47羽が巣立ちした。
- ③ 早期のカラスの集団対策が必要。抱卵が始まったら、シフトをしいて見守る。
- ④ 久光製薬より10万円の寄付をもらえることが決まった。営巣地の金網ネット(現在老朽化している)の購入にあてる予定。
- ⑤ セブンイレブンに50万円申請予定。もらえたら営巣地に監視小屋を建てたい。

(2) コウノトリについて

- ① 白石町に少なくとも4羽のコウノトリが生息している。現在今年生れのカレンは巣塔近隣で昨年生れのカノンと一緒に行動している。
- ② 「コウノトリの会」の会員は現在30名。来年は地元の「コウノトリの会」が見守り活動の中心となる。佐賀県支部は役場、九電との交渉などを受け持つ。
- ③ 保護活動の資金としてサントリーの助成金など申請している。サントリーの基金使用については守る会との調整が必要。

(3) ブッポウソウについて

- ① 今年はブッポウソウのペアが目撃された。
- ② 設置した巣箱を9月末~10月に掃除をかねて見に行く。営巣していれば、形跡があるかもしれない。10月に巣箱のメンテナンスをする。
- ③ 筑後支部では巣箱設置後、5年目に入った。

(4) カササギについて

- ① 佐賀県の県の鳥であるカササギが激減している。生息数は10年前の半分、このままだと加速度的に減って絶滅の危機にある。
- ② 保護のために、県にはカササギ保護特別区域を作ってもらい、カラスの駆除、農薬を使わない農業をしてもらいたいが、そのためには農家への補助などが必要であり、県は動こうとしない。
- ③ 署名運動などで佐賀県に働きかけていく必要がある。
- ④ 現在あるカササギ関連の資料は九州電力のもののみ。支部でもカササギの実態調査をして、問題提起してはどうかとの意見があった。

(5) ビオトープについて

- ① 佐賀県支部は東与賀の田園地帯にビオトープを設置した。面積は約5000㎡。中心部には池、その周囲を「土手・堤防」で囲んでいる。
- ② ビオトープの運営・利用には、日本野鳥の会佐賀県支部、世界自然保護協会、佐賀大学、水辺を守る会、東与賀支所などいくつかの団体に関心を寄せている。
- ③ 野鳥の会はツル分散計画やコウノトリのエサ場として活用したい。シギ・チドリの渡り時期には水量を調節して休息地になるようにしたい。
- ④ 自然保護協会はニッポンバラタナゴ、カワバタモロコの繁殖などを期待する。
- ⑤ WWF、九州大学が関与してビオトープに在来絶滅危惧種のニッポンバラタナゴな



どの純血種を入れる予定。

- ⑥ 水辺を守る会はミズアオイの繁殖地にしたいと考えている。
 - ⑦ 運営・利用には、各団体の情報共有・意見交換や適切な順応管理が必要。
 - ⑧ ビオトープ敷地内に物置小屋を設置する。草刈り機などを保管する。
- (6) 佐賀市野鳥調査について
- ① 今年度は佐賀市内の 14 カ所が調査の対象である。
 - ② 秋の調査は、10月1日～31日で実施する。

(7) 九州沖縄ブロック大会について

- ① 来年の九州沖縄ブロック大会は佐賀県支部が担当する。
- ② 来年5月の第2週か第3週の土曜日曜あたりを会期とする。
- ③ 宿泊、大会行事、観察会場などを決めていく。



(8) その他、探鳥会の会場、旅費の取り扱い、今後の探鳥会などについての協議を行った。



事務局便り

(事務局: 八木 ひとみ)



(1) ようこそ 佐賀県支部へ！・・・支部入会者情報

支部報 253 号でお知らせした以降の入会者情報をお知らせいたします。

8月入会者 1名 11月入会希望者 1名(家族会員)

佐賀県支部の会員は現在 **282名**です。

新入会員の皆様！ 積極的に参加してください。楽しい仲間が待っていますよ！
また、入会はしたけれどもまだ一度も参加されてない方もいらっしゃいます。
是非いらしてください。お待ちしております！

『観察会に参加できないから・・・』とか『高齢だから・・・』との理由で退会される方もおられます。私たち野鳥の会は鳥や自然を愛でる趣味の会ですが、同時に野鳥を大切に
する活動を通しどんどん失われていく自然を守る自然保護団体でもあります。

私たち一人一人の数が！ みんなの出し合う会費が！ 自然を守る『力』になります！
「会員」でいることが「自然保護に協力していること」になるのです。
お願いします。経済的にご負担でなければ会に籍を置き続け、今残る自然を次の世代へ引き
継ぐ『力』を貸してください！！

みなさまの周りに花や昆虫など自然の生き物に興味・関心をお持ちの方はいらっしゃい
ませんか？ 是非お誘いください。野鳥の会は 「いつでも入会 OK」です。

日本野鳥の会とは

「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、野鳥や自然の素晴らしさを伝えながら、自然と
人間とが共存する豊かな社会の実現を目指し、活動を続けている自然保護団体です。

(2) 物資販売係からのお知らせ

*2025年カレンダー 予約受付中！

個人で購入されるより送料負担が軽くなります。(1回の送料 880円)

支部からのまとめ注文で送料負担を軽くしませんか？

*ご希望の方は、10月31日(木)までに商品名と、注文数をご連絡願います。



ワイルド・バードカレンダー2025

販売価格 **1,320円**(税込)

●各月の鳥

1月 ベニマシコ、2月 ユキホオジロ、3月 コチョウゲンボウ
4月 クロツグミ、5月 スズメ、6月 オオジシギ
7月 コヨシキリ、8月 チュウサギ、コサギ、
9月 アオゲラ 10月 ハマシギ、
11月 マガン、シジュウカラガン、12月 ハイロチュウヒ



バーズ・イン・シーズンズ 2025 卓上カレンダー

「12か月を彩る野鳥」 販売価格 1,320円(税込)

*ポストカードにもなります。

●各月の野鳥

1月 ミコアイサ、2月 ジョウビタキ、3月 コガモ
4月 ハジロカイツブリ、5月 オオルリ、6月 セッカ
7月 アマツバメ、8月 マジジロアジサシ、9月 ハクセキレイ
10月 イスカ、11月 エナガ、12月 スズメ



しあわせことりカレンダー2025 販売価格 1,100円(税込)

*壁掛けタイプ

●各月の野鳥：

1月 ルリビタキ、2月 シマエナガ、3月 ジョウビタキ
4月 コチドリ、5月 セッカ、6月 ゴイサギ
7月 ツバメ、8月 ウグイス、9月 シジュウカラ
10月 コゲラ、11月 エナガ、12月 ヤマガラ

*見ているだけで幸せ気分。今年も鳥たちのかわいさ満載です！

*BIRD SHOP(日本野鳥の会 通販カタログ)掲載商品のお取り寄せもいたします。

どうぞお気軽に、ご相談ください。

連絡先：物資販売担当 蒲原 留美

TEL 090-5294-3103 メール kamoharu@po.hagakure.ne.jp



「日本鳥学会」で「佐賀のコアジサシ保護活動」を報告

(文責：青柳 隆)

9月13日東京大学農学部キャンパスで日本鳥学会自由集会「コアジサシ国勢調査」が開催されました。日本野鳥の会佐賀県支部へ主催者より参加依頼があつて宮原明幸支部長が出席しました。この参加依頼は、佐賀県支部のコアジサシ保護活動の積極的な取り組みが全国的に話題となり評価されたためです。

去る9月23日の佐賀県支部役員会で、宮原明幸支部長から学会出席の状況が報告されましたのでその報告をもとに私（青柳隆）が文章化しましたのでお知らせします。

コアジサシ国勢調査の目的は、今年東京湾沿岸でコアジサシのヒナの巣立ちが1羽も無かつたことを受けて、日本全体の状況を把握する必要があつたからだと思います。調査にはバードリサーチ・日本野鳥の会・みんなで守ろうコアジサシ・東京都市大学等が主体的にあたっています。今回の参加者は当初の案内では20人ほどと聞いていましたが、予想に反して講義室は立ち見が出るほどの盛況で、コアジサシの危機的状況への関心の高さをうかがい知ることができます。

調査集計の結果は渡来総数5018羽で巣立ったヒナが252羽でした。

巣立ちが渡来数の5%というのはまさに危機的状況です。

環境省は絶滅危惧種Ⅱ類としていますが絶滅危惧種Ⅰ類に格上げ(?)しないとイケないのでは・・・という話も出ました。

また各地よりの現状報告が東京・埼玉・茨城・愛知・岡山・福岡・佐賀からありましたが異口同音に渡来数の激減と繁殖の失敗話ばかりでした。

繁殖の失敗の要因は温暖化による餌のイワシの減少、開発による営巣地の消失、温暖化で地面の熱上昇等々が出されましたが、一番の原因は営巣地におけるカラス・ハクビシン・チョウゲンボウなど、天敵による捕食や巣の放棄でした。

宮原支部長は佐賀県支部で取り組んだ

- ① 営巣地周囲をネットで囲い小動物の侵入を防止する。
- ② 土管やレンガ等でシェルターを設置する。
- ③ カラスの襲撃防止のための見守り活動をする。

などの経験を報告し「確かに絶滅危惧種Ⅱ類をⅠ類に引き上げることも大切だが、併行して積極的な繁殖支援で1羽でも2羽でも多く巣立たせることが急務である」「知恵を出し合い積極的に繁殖支援をする『佐賀モデル』の取り入れの推奨」を話しました。

今年の佐賀での飛来数は80羽で全国の1.6%ですが、巣立ちはカラスの襲撃もあった中47羽で全国の18.7%です。(昨年の佐賀の巣立ちはなんと116羽でした)

佐賀県支部の活動はコアジサシの絶滅を防ぐための貢献度が大きいと言えるでしょう。

佐賀県支部の宮原支部長の報告を受けて『佐賀モデル』を是非取り入れたいとの声をあげる団体もありました。

『佐賀モデル』はコアジサシの運命を左右するかも知れません。今後の取り組みをさらに改善し来年以降も頑張りましょう！皆様のご協力をよろしくお願い致します。





各地の探鳥会報告



■雲仙・あざみ谷探鳥会（雲仙市）

【日 時】 2024年7月26日

【参加者】会員7名（案内役：橋本 泰博）

【観察された野鳥】キビタキ、クロツグミ、ヤマガラ、シジュウカラ、ソウシチョウ、ウグイス、メジロ、センダイムシクイ、コゲラ（声）、ハシボソガラス（声）、ヒヨドリ（声）、ハシブトガラス（声）、ホトトギス（声）、トビ（駐車場）（14種）

【案内役より】

今回も現地集合にした。雲仙仁田峠ロープウェイ乗り場下の駐車場に集合して、あざみ谷まで登山道を歩くこと30分。汗をかきながら到着したあざみ谷は、普段は天然のエアコンで涼しいのだけれど、強風のせいで寒かった。簡易ブラインドを2張り持参して少人数なので、普通なら鳥がワンサカやって来るはずだった。強風のせいだろうか、最近少なくなっているような気がしていたソウシチョウばかり多くて、鳥の種類は少なめだった。それでも、あざみ谷初体験の方が3名いて、クロツグミの♀が2度も水浴びにやって来たり、キビタキも姿を見せてくれたので、満足してもらったようだった。

■室内学習会（佐賀市）

【日 時】 2024年8月25日

【会 場】東よか干潟ビジターセンター「ひがさす」

【参加者】会員18名

【担当者より】

猛暑が続く8月は例年フィールドでの探鳥会はお休みです。熱中症の心配もですが、鳥達は換羽の時期で、なかなか姿を見せないことも要因です。今回は、コウノトリの基礎知識を学びました。今年も白石でのコウノトリ繁殖支援で、ずっと見守りを続けた皆さんお馴染みの鳥ですが、灯台下暗し、身長・体重・クチバシの長さ等の形態、生息地・エサ・渡り等の生態や分類・歴史を再度確認致しました。

■ツバメの塹（ねぐら）入り観察会（佐賀市）

【日 時】 2024年9月7日

【参加者】会員10名 非会員17名（案内役：宮原 明幸）

【観察された野鳥】アオサギ、ダイサギ、ゴイサギ、ソリハシシギ、アオアシシギ、オオハシシギ、ハヤブサ、ツバメ、ハクセキレイ、スズメ、ムクドリ（11種）

【案内役より】

非会員の参加が17人、財団の「ツバメのねぐら入り観察会」の案内を見て来られた方々です！今年の塹は牛小屋横のアシ原。金星が西の空に見え出した頃から三々五々集まり出し、暮れるまで四方より集まり乱舞、やがて静かになりました。

参加された方々も感動され歓声が上がってますが・・・今年は少なく感じます？
ハヤブサが毎日狩りに来ることの影響で、少ないのなら良いのですが！
この時季、乱舞する赤とんぼ（アキアカネ）は1匹も飛んでいません。

■鏡山ハチクマの渡り観察会（唐津市）

【日 時】 2024年9月21日

【参加者】 会員4名（案内役：宮原 明幸）

【観察された野鳥】 トビ、ハチクマ、キジバト、アマツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（9種）

【案内役より】

長期予報では雨、昨日からは曇りのち雨。そんなことも有ってか？ 集合時間になっても来られたのは3名だけでした。もしかしたら9時と勘違いされているのでは？ と8時半まで待ちましたが誰も見えず。

展望台へ移動。正直、午後から低気圧が近づくのなら渡りは期待出来ないと考えていましたが（笑い）然に非ず、9時頃より渡り出します。

山の上空は北西の強い風が吹いているようで、なかなか前に進めない様子。

それもあってか全体的に低く飛び、ハチクマは大変でしょうが、楽しむことが出来ました♪ 雨の降り出すお昼までに飛んだハチクマは78羽でした。

■非会員様限定バードウォッチング 開催報告

■ツバメの滞入り観察会（佐賀市）

【日 時】 2024年8月31日

【参加者】 44名（県内16名、県外28名）（案内役：宮原 明幸）

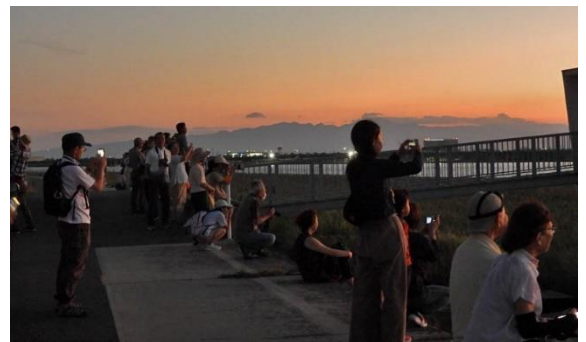
【観察された野鳥】 アオサギ、ダイサギ、カルガモ、アオアシシギ、ソリハシシギ、ハヤブサ、ツバメ、スズメ、ムクドリ（9種）

【案内役より】

財団の「ツバメのネグラ入り観察会」の案内もあり、他県から多くの参加がありました。

太陽が空を真っ赤に染める頃から、集まり乱舞するツバメに皆さん感動され歓声もあがってました。

（写真提供：八木 ひとみさん）





皆さんからのおたより



●「佐賀県内で伝承されてきた民話の中の野鳥達（1）」

～ききなし等地域とのつながりを中心に～・・・小副川 肇さん

（はじめに）

民話、特に動物昔話の中には、小鳥前世譚（話）と呼ばれる鳥が登場する話のグループがあります。この小鳥前世譚は、民話の中でも、特に家の周りの田畑や野山など身近な自然環境が反映されたものが多く、昔の人がいかに自然と身近に生活していたかということを知ることができます。

小鳥前世譚は、県内でもたくさん採集されており（佐賀県は、民話の採集数等において全国有数の県です）その中から代表的な話を何話か紹介できればと思っています。

昔の人が野鳥などの住む自然環境といかに深く関わって生活していたのか、ということが感じられると思います。

（話1）

潮が満ちてくると鳴く干潟地の鳥の由来（佐賀市東与賀町）

語り手 鶴照夫さん（明治42年生）

ありゃ、潮水鳥（しおみどり）て言いよった。

そいはね、潮水鳥の子供がね、よっぽど親の反対ばかいしよったてね。

そいけん、親が死ぬ時にさい、「おい（俺）が死ぬぎ海に埋めてくれ」て、その子供に言うたて。

そいぎ、子供が「親の死んだ時ないどん（死んだ時くらい）、親孝行せじやこてえ（しなきゃあ）」ちゅうてね、山に埋めんで海に埋めたて。

※「新佐賀市の民話」P42より（昭和59年採集）、テープでの聞き取りをほぼそのまま書き起こしたものです。

（コメント）

この話は40年程度前佐賀東与賀で聞いた話ですが、一昔前までは、その周辺部の同市諸富町、川副町や小城市牛津町、芦刈町などの有明海沿岸部でも沢山聞くことができました。有明海沿岸部だけにしか伝承されていないということで、佐賀県独自の民話と言っていいと思います。

さてこの話を聞いて（読んで）、似たような話を他の動物の話で聞いたことがあると思っただ方はおられませんか。（特に、ご高齢の方）実は、県内の他地域ではほとんど蛙の話として伝わっている話なのです。（同じく海に面した県北の唐津や伊万里の沿岸部や島においても蛙です）

この話には、もう一つ面白い特徴があり、同じ有明海沿岸部なのに、登場する鳥の名前が地域により異なっているのです。東与賀では「潮水鳥（しおみどり）」ですが、川副では「ちょうひんどい」、諸富では「とへいどり」、芦刈町では「チドリ」など、と言います。

この話がなぜ蛙でなく鳥の話として有明海沿岸部に広まったのか、また、なぜ鳥の名前が地域毎に異なっているのかは、今のところよく分かっていません。

ただ、堤防がいつ壊れるか分からないなどの厳しい干拓地での生活の中で、一緒に入植した人達の共同体意識(仲間意識)は相当に強いものがあつたのではないかと想像できます。

こうした強い共同体意識が影響して、蛙の話は内陸部と異なる干潟地を象徴する鳥の話に変わっていき、鳥の名前も入植地ごとに異なっていたのではないかと考えられます。(干潟地に集まる鳥の種類が多いということも影響しているのかもしれませんが)

なお、この話が学術的にどの鳥種をさすのか、よく分かっていません。チドリは分かりますが「潮水鳥」や「とへいとり」は全く分かりません。「ちょうひんどい」はおそらく鳴き声からきているのだらうと思いますが、ご存じの方がおられたら、ぜひ教えていただければ助かります。

最後に、このコーナーでは、今後県内で採集された民話の中から、鳴き声の由来を語る「時鳥の鳴き声の由来」、形態や習性の由来を語る「雀と燕」、「梟の由来」、「鳥の王の選挙(ミソサザイ)」などを紹介したいと考えます。

「徳淵さんのコアシサシ写真が入賞」

徳淵義実さん(鳥栖市)さんのコアシサシの写真が読売新聞「読売のニュース写真 2024年6月度」の2席に入賞されましたのでご紹介します。なお、入賞賞金は野鳥の会に寄付していただきました。



徳淵義実様

いつも読売新聞社へ写真の提供をいただき、誠にありがとうございます。

先日、読者のニュース写真月例審査が行われ

このたび、ご提供いただきました写真

「コアシサシの王になれ」が

「読者のニュース写真」2024年6月度の

2席に内定しました。

「読者のニュース写真」は日頃から写真提供いただいている読者の方の中から審査を行い、紙面発表するとともに賞品をお渡ししています。

この作品は年末に審査される「よみうり写真大賞」ニュース部門年間賞の審査対象にもなります。そのため、オリジナルのフィルムやデータ取り扱いについておねがいがございますので、別紙をご参照ください。

紙面発表は7月29日(月)朝刊を予定しています。

紙面発表後、商品券、発表紙面などをお送りします。

今後とも読売新聞社をよろしくおねがいいたします。

〒100-8055 東京都千代田区大手町 1-7-1

読売新聞東京本社写真部

読者のニュース写真

Tel: 03-3217-8133 Fax: 03-3217-8137

Mail: dokusyap@yomiuri.com



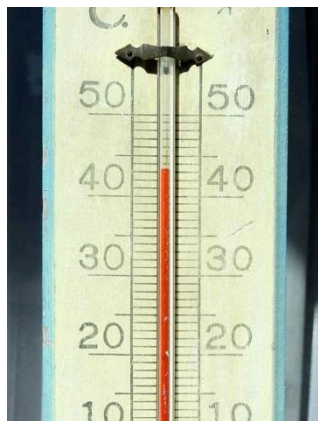
●「カメラでウォッチング from “OUTI” Part12」

・・・小松 常光さん（唐津市相知町）

【4時でも43度超え】連日猛暑。今日も暑くて午後4時でも外気温は43度を超えていた。花も野菜も花木もハトハト。（7/31）

【ウコンの花】ウコンの花を初めて見た。福岡県で野菜作りにハマッテいらっしゃるMお医者さんの自慢の畑で拝見。珍しい野菜がいっぱいだった。

【ルコウソウ】夏の花ルコウソウ。花茎は2センチくらい。自分で勝手に芽を出し知らぬうちに咲いてくれた。（8/12）



外は43℃！



ウコンの花



ルコウソウ

【キュウリの花】収穫していると実にばかり目が行く。今朝、改めて花を見てみた。

トゲトゲをまとっているのが雌花で、この赤ちゃんが実になる。似てるが花だけののが雄花。ハチが来て受粉してるのか？

【ピーマンの花、ナスの花】メシベとオシベが一緒に付いている。中心にあるメシベがオシベより長く出ているときは「木？」（うちらでは「ノキ」と言う）の栄養状態が良好らしい。（8/18）



野菜の花特集！（左からキュウリ、ピーマン、ナス）

【オンブバッタ】上に乗っているのがオス。繁殖のためにオスは必死のようだ。無理やり離しても又乗るのだろうか？

【カエル】カエルも暑いのだろうか？ 家の北側や日陰の水バケツに見かけないカエルが避暑に来たようだ。ニホンアカガエル？ ヤマアカガエル？ 分からない。

（8/22）



オンブバッタ



ニホンアカガエル?



ヤマアカガエル?

【モウセンゴケ】個人的には思い入れのある植物で、もう会えないと思っていた場所で発見し感激。(9/4)

【9月の最高気温】9月11日、伊万里市では36.8℃の9月としては佐賀県内新記録の最高気温だったとTVで騒いでいた。だが何のことはない。我が家の軒下日陰にある最高最低温度計は自動で佐賀県内新記録を超える37.5℃を記録していた。

右が最高温度目盛で水銀柱(撮影時は33.4℃くらい)が記録棒を押し上げて記録を残していた。このところ連日酷い暑さでシャクナゲはイカれるわ、畑では意識が薄れそうになるわ、植えたキャベツ苗は枯れるわで散々だ。もちろん外の温度は軽く40℃を超える。(9/13)

【ナンバンギセル】カヤ(茅・すすき)などに寄生して栄養を摂るナンバンギセルを見つけに行った。今年は暑いからか小ぶりのものを一株だけ発見。



モウセンゴケ



9月の最高気温



ナンバンギセル

【ヒガンバナ】平地では彼岸花の時期になった。強烈に暑いので咲く時期がズれるかと思ったが季節の暦通り(?)に咲き出した。

【中秋の名月】名月を撮るには撮れたが、コラボさせるツリーとかタワーとかがないから絵にならないので拡大してみた。名月は自分の目で愛でるのが一番の様だ。

【秋色の始まり】柿の落ち葉も秋色になっている。(9/19)



ヒガンバナ



中秋の名月



秋の始まり(柿)



皆さんからの野鳥&自然・生きもの情報



■加藤 芳隆さん（上峰町）

★今日の大授搦（東よか干潟）

【7月21日】シロチドリ3羽、メダイチドリ、オオメダイチドリ（メダイチドリと合わせて78羽）、ダイゼン59羽、トウネン1羽、ウズラシギ（Mさん確認）、ハマシギ276羽、オバシギ15羽、アオアシシギ100羽、ソリハシシギ23羽、キアシシギ3羽、オオソリハシシギ3羽、ダイシャクシギ4羽、ホウロクシギ7羽、チュウシャクシギ ※ハマシギも増えてきて賑やかになって来ました。

長旅してきたんでしょう、初列風切り痛んでます。

【8月4日】シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、オバシギ、キアシシギ、キリアイ2羽、オオハシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、オグロシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ

※オグロシギとキリアイが初認です。キリアイは早い初認です。

【8月6日】シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ダイゼン132羽、トウネン、ハマシギ、コオバシギ1羽、オバシギ7羽、オオハシシギ1羽、アカアシシギ2羽、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ5羽、ホウロクシギ17羽、チュウシャクシギ

※アカアシシギとコオバシギは初認です。クロツラヘラサギは11羽確認。



ハ マ シ ギ



オグロシギ



キリアイ



アカアシシギ



【8月18日】ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ37羽、オオメダイチドリ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ3羽、アカアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ

※サルハマシギ初認です。 コアジサシの親子も確認。

【8月24日】シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、エリマキシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ

※ムナグロ4羽初認です。

【8月31日】シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ダイゼン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、コオバシギ2羽、オバシギ、キリアイ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ

【9月1日】シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ

※ツバメがたくさん飛んでいました。



サルハマシギ



ムナグロ



ツバメ

【9月7日】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ダイゼン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、セイタカシギ

【9月8日】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、シマアジ、クロツラハラサギ、クロハラアジサシ

【9月16日】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、エリマキシギ、

アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、オナガガモ、クロツラヘラサギ、クロハラアジサシ、ツバメ、ショウドウツバメ、ハヤブサ

【9月18日】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、エリマキシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、クロツラヘラサギ 23 羽、クロハラアジサシ 3 羽、ミサゴ、トビ、ハクセキレイ

【9月20日】これまで確認されたシギ・チドリ 25 種+オオハシシギ 初認です。



ハジロコチドリ



コオバシギ



オオハシシギ

【9月21日】シギ・チドリ 27 種目+サルハマシギ幼鳥 1 羽

【9月22日】ハジロコチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、ヨーロッパトウネン、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、エリマキシギ、オオハシシギ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、キアシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、コシヤクシギ幼鳥 3 羽



コシヤクシギ



サルハマシギ



ヨーロッパトウネン

★その他の地区

佐賀市富士町 檜原湿原

【8月10日】アオゲラ、ヒヨドリ、ヤマガラ、シジュウカラ、ダイサギ、メジロ、リュウキュウサンショウクイ、エナガ、ハシブトガラス、モズ、ツバメ、アオサギ

基山町

【8月11日】ササゴイ

熊本県荒尾干潟

【8月11日】アオバト、ダイサギ、アオサギ、ダイゼン、キアシシギ



リュウキュウサンショウクイ



ササゴイ



アオバト

福富

【8月12日】コチドリ、バン、トウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、タカブシギ、コサギ、クロツラヘラサギ、ハヤブサ、ミサゴ、トビ、ダイサギ、アオサギ、ツバメ、セッカ、ヒバリ

佐賀市大和町

【8月13日】キセキレイ、セグロセキレイ、カワセミ、ヤマセミ、ホオジロ、ヒヨドリ、カワウ、コゲラ、メジロ、オシドリ、アオサギ、ダイサギ、キジバト



ヒバリシギ



ヤマセミ



オシドリ

白石町

【8月24日】ウズラシギ、ハマシギ、エリマキシギ、キリアイ、トウネン、コウノトリ（ナル、つむぎ、かのん、カレン）、ヒバリシギ、ハヤブサ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヒバリ、セッカ、ムクドリ、キジバト、ツバメ、バン

【9月1日】コウノトリ（ナル、つむぎ、かのん、カレン）、オグロシギ、キリアイ、エ

リマキシギ、ツバメ、アマサギ、ダイサギ、アオサギ、トウネン、ミサゴ、ハヤブサ、アオアシシギ、セイタカシギ、ムクドリ、スズメ、ウズラシギ、コチドリ、バン、コサギ、セッカ、ヒバリ、カワウ

【9月8日】コウノトリ（つむぎ、かのん、カレン）、アカエリヒレアシシギ、トウネン、コチドリ、オグロシギ、エリマキシギ、アオアシシギ、ウズラシギ、キリアイ、ダイサギ、コサギ、アマサギ、アオサギ、ゴイサギ、カワウ、ミサゴ、ハヤブサ、セッカ、ヒバリ、バン、スズメ、キジバト

【9月15日】トウネン、タカブシギ、タシギ、セイタカシギ、ホウロクシギ、ツルシギ、ウズラシギ、エリマキシギ、ヘラサギ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、カワウ、ミサゴ、トビ、ハシブトガラス、ツバメ、セッカ、ホオジロ、ハヤブサ、コウノトリ（なる、カレン、つむぎ）



アカエリヒレアシシギ



オグロシギ



ツルシギ

■秀島 泉さん（多久市）

7月27日【唐津市】センダイムシクイ 8月17日【武雄市】エゾムシクイ
エゾムシクイはその日1日待ったのですが、メジロみたいに小さく動きも素早いので撮影に苦労しました。 両ムシクイもこちらでは初見でしたので大変うれしかったですね。



センダイ
ムシクイ



エゾムシクイ



10月1日【武雄市】メジロ、ウグイス、キビタキ ※ネットを張って約5時間待った
甲斐がありました。最後にキビタキが来てくれて大変うれしかったです。



メジロ 水浴び中 ウグイス キビタキ

■八木 ひとみさん (佐賀市)

8月22日【白石干拓】ツバメ 100羽ほど、アオアシシギ、タカブシギ、エリマキシギ
※エリマキシギはさかんに採餌していました。草の実? 虫?

8月31日【白石干拓】ヘラサギ、コウノトリ (ナル)、アオサギ



エリマキシギ

←アオアシシギ



(左から) ヘラサギ、
コウノトリ、アオサギ→



● 近隣地区の探鳥会情報

日本野鳥の会本部HPにも最新の探鳥会情報
がありますよ！ → <http://www.wbsj.org/>

■ 日本野鳥の会 福岡支部 (参加費：会員 100 円 一般 300 円 中学生以下無料)

- 福岡市西区今津：11/3 (日) 12/1 (日)
- 春日市春日公園：11/5 (火) 12/3 (火)
- 福岡市大濠公園：10/12 (土) 11/9 (土)
- 福岡市和白海岸：10/13 (日) 11/10 (日)
- 筑紫野市天拝山：10/19 (土) 11/17 (日)
- 福津市久末ダム：10/27 (日) 11/24 (日)

■ 日本野鳥の会 筑後支部 (参加費：会員&高校生 100 円 一般 200 円 中学生以下無料)

- 久留米市高良山：10/27 (日)
- 小郡市花立山：11/3 (日)
- 鎮西湖：11/17 (日)
- 久留米城址～筑後川：11/24 (日)

※探鳥会の日程、場所は変更されることもあります。

上記以外にも、月例探鳥会(福岡支部)や企画探鳥会(筑後支部)が実施されています。

お問い合わせは各支部のHPへ 福岡支部 <http://hachikuma3.blog.fc2.com/>
筑後支部 <https://wbsj-chikugo.org/>



有明海の満潮時刻 (六角川観測塔)



※潮高 5m以上、午前 7 時頃から 12 時頃に満潮を迎える日時を掲載しています。

	時刻	潮高 (m)		時刻	潮高 (m)
10月5日	10:25	5.5	11月1日	9:00	5.1
10月6日	10:53	5.3	11月2日	9:35	5.4
10月7日	11:20	5.1	11月3日	10:09	5.3
10月15日	7:14	5.3	11月4日	10:41	5.2
10月16日	8:04	5.7	11月5日	11:12	5.0
10月17日	8:52	6.0	11月13日	6:49	5.1
10月18日	9:38	6.1	11月14日	7:43	5.5
10月19日	10:22	6.0	11月15日	8:34	5.7
10月20日	11:03	5.7	11月16日	9:23	5.7
10月21日	11:42	5.3	11月17日	10:09	5.6
10月30日	7:51	5.1	11月18日	10:53	5.4
10月31日	8:26	5.3	11月19日	11:34	5.2
			11月30日	8:40	5.1

満潮時刻と潮高をたしかめてから行こう！

■ 東よか海岸 (大授搦)
潮高 5.0m 満潮の2時間前くらいがベスト！

■ 鹿島新籠海岸他
潮高 4.0m 満潮の1時間前後がベスト！

満潮時には、残された干潟に鳥が集まり、近くで見やすい状態になります。

ただし、小潮だと遠すぎるし、大潮になると干潟が水没してしまって、鳥が移動してしまいます。





探鳥会会場までの案内

交通手段が無い場合は、担当者までご連絡を！

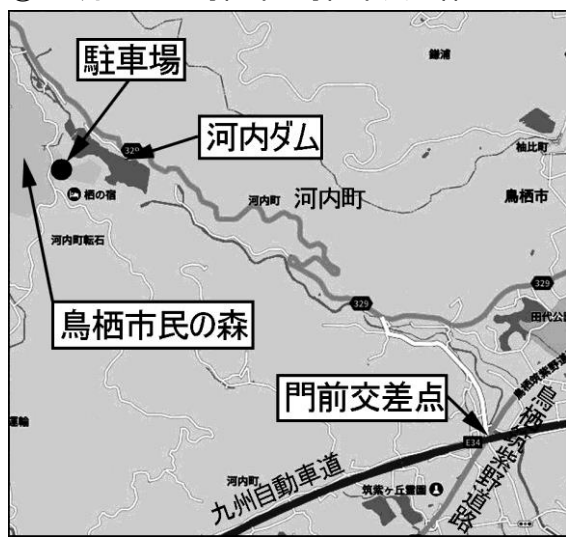
①10月13日 佐賀市・巨勢川調整池



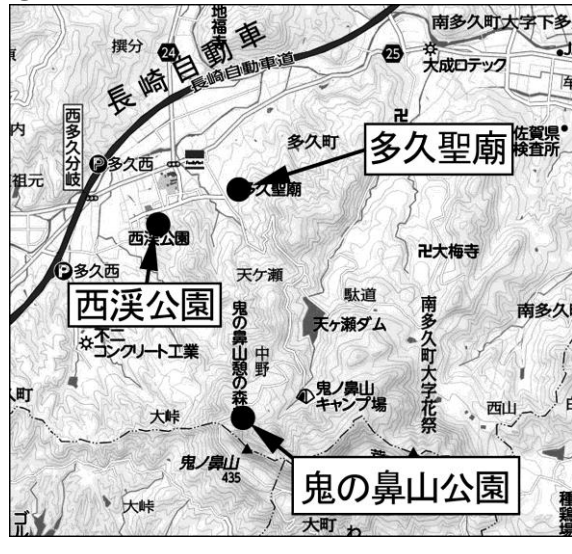
②10月20日 ④11月17日 東よか干潟



③11月10日 鳥栖市・鳥栖市民の森



⑤11月24日 多久市・多久聖廟



テレビ朝日の番組「私の幸福時間」にシギ・チドリの聖地？「東よか干潟」の主の「加藤芳隆さん」が出演されました。(9/10放送)
下記のテレビ朝日「You Tube」チャンネルでバックナンバーを見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=8tcIHdWnns8>

～野鳥さが原稿募集中～

- ① 詩歌・句・イラスト募集！ 皆様の作品をお待ちしています。気軽にご参加ください。
- ② 投稿・ご意見などをお寄せください。(編集部：馬場順一)
〒841-0053 鳥栖市布津原町 61 A12-11 携帯：090-5084-2649
(Eメール) f_baba841@ybb.ne.jp





探鳥会などのご案内

(2024年10月～11月)

①10月13日(日)

巨勢川調整池探鳥会(佐賀市)

[時間&場所] 9:00 佐賀市金立町 巨勢川調整池内の東名(ひがしみょう)縄文館駐車場
[担当] 島田 洋さん(佐賀市) 090-2393-1286
[見どころ] 調整池で冬を過ごす「カモ類」や「ホオジロ類」、それを狙う「タカ」の仲間を観察します。(トイレあり)

②10月20日(日)④11月17日(日)

東よか干潟(大授搦)探鳥会(佐賀市)

[集合] (10/20) 9:00 (11/17) 8:00
東よか干潟展望台(佐賀市東与賀町田中)
[担当] 橋本 泰博さん(みやき町) 090-8833-6130
加藤 芳隆さん(上峰町) 090-4510-1560
(11/17) 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085
[見どころ] 干潟で越冬する鳥たちを観察します。数年前から「ソリハシセイタカシギ(アボセット)」も越冬隊に参加中。(トイレあり)

③11月10日(日)

鳥栖市民の森探鳥会(鳥栖市)

[時間&場所] 9:00 鳥栖市河内町の鳥栖市民の森駐車場
[担当] 橋本 泰博さん(みやき町) 090-8833-6130
[見どころ] 山間部の公園で冬を過ごす小鳥たちを観察します。(トイレあり)

⑤11月24日(日)

多久聖廟探鳥会(多久市)

[時間&場所] 9:00 多久聖廟駐車場(多久市多久町西ノ原 1833-3)
[担当] 宮原 明幸さん(佐賀市) 090-2507-7085
[見どころ] 公園から牛津川までの多様な環境で暮らす野鳥を観察します。「山辺の鳥」から「水辺の鳥」まで観察できます。



探鳥会のお問い合わせは、佐賀県支部 web サイト(ホームページ)の「お問い合わせ」よりメール、又は宮原支部長の携帯電話(090-2507-7085)へ連絡をして下さい。

共通事項

- ① 参加費(資料代、保険代)佐賀県支部会員 100円 非会員は 300円
- ② 雨天中止。(前夜 18:55 の NHK 天気予報で降水確率 50%以上の場合、原則として中止)
- ③ 集合に遅れる時は早めに担当者に連絡し、会場に不慣れな場合は、必要な指示を受けて下さい。
- ④ 帽子、雨具、水筒などは適宜ご持参ください。
- ⑤ 場所や交通手段、便乗の可否などのお問合せは各担当か事務局まで。

「野鳥さが」 ～日本野鳥の会佐賀県支部 会報～
公益財団法人 日本野鳥の会 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
電話 03-5436-2620(代) FAX 03-5436-2636

日本野鳥の会佐賀県支部 支部長：宮原明幸 (☎ 090-2507-7085)
事務局：島田 洋 (☎ 090-2393-1286)
支部 web サイト <https://www.yacho-saga.org/>